

(様式1・小学校用①)

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立両新田小学校
(令和5年2月24日作成)

1 学校教育目標 進んで学ぶ子 やさしい子 たくましい子	
2 重点目標・努力目標 (1) 学習指導の充実・学習規律の確立 (2) 幼保小中を一貫した教育の推進 (3) 安全・安心で開かれた学校づくり (4) 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実 (5) 豊かな心の育成 (6) 健康でたくましい児童の育成	3 前年度の成果と課題 成果 ○研修主任を中心に計画的、継続的に研修に取り組むことができた。 ○「主体的対話的で深い学び」の授業改善に取り組んだ。 ○生徒指導主任を中心に組織的な生徒指導対応を「することができた」。 ○各教科やいじめ撲滅と関連させ、人権意識の高揚を図ることができた。 課題 ●個に応じたきめ細やかな指導の充実。 ●学力向上、主に基礎基本の定着とそれを活用する能力の育成。 ●自己肯定感、自己有用感を高め、学んだ知識・能力を活用する児童の育成。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○日課・週時程は児童の実態に合っており適切だった。 ○予算を工夫してよりよく活用されている。 ●校務分掌については、一部で偏りが見られた。改善が必要。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○研修主任を中心として、授業研究会は質が高い内容となった。 ●まだまだ授業規律が確立されておらず改善が必要。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○学校保健計画が充実している。 ○児童のけが等発生時は、管理職を含め迅速に対応できてよかった。 ●無言清掃を含め指導が徹底できていない。組織的な対応が必要。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報管理規定に基づき、対応できている。 ○備品設備は整理整頓できており、活用しやすい。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○給食の写真や学校日記が随時更新され、よく発信できている。 ○学校運営協議会も5回実施し、活動が活性化している。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○年2回幼保小中連絡協議会を開催し、共通理解を深めることができた。 ●中学校との連携は強いが、幼保との連携が少し希薄であった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「今年度の努力点」の達成に向けて取り組みを実践することができた。 ○朝会や集会が感染防止対策を行い、計画的に行われたのがよかった。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを明示した授業を実践できた。 ●体育の授業時間数が1学期に偏り、他教科の時間数を圧迫するケースが見られた。 ●算数の少人数指導の内容を改善するべきである。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業研究会の内容がよく、授業改善に役立った。 ○各教科と連携させた指導の充実を図った。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTや教材・教具を活用し、児童の興味関心を高める授業を行うことができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で活動が制限されたが、計画通り実践することができた。 ●児童の自分の仕事に対する意識改善を行うことが重要である。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○5・6年生の調べ学習が充実していた。 ●地域の人材活用、施設等の有効活用の検討が必要。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強く指導を行った結果が不登校改善に少しずつ表れている。 ○教職員が同じ基準で指導することができた。来年度はさらに充実させていきたい。 ●規律が身につけていない児童に対しての指導方法を改善すべきである。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「挨拶ン同」で中学校と連携する機会を設け、進路への興味関心を高めた。 ●乗り入れ授業を充実させ、児童の意欲向上を図るべきである。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援コーディネーターを中心に配慮を要する児童への指導を行うことができた。 ○通常学級との交流を積極的に行いことができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書と連携を図り、図書館経営を充実させることができた。 ○読み聞かせ等計画的に行い、児童の読書への興味関心を高めることができた。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して授業を展開することができた。 ●話し合い活動にタブレットをどう活用すべきか検討が必要である。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会と連携していじめ撲滅の集会を開催し、人権意識の高揚を図れた。 ●日常的に人権に対する意識を高めさせることが課題である。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	基礎学力の定着 授業規律の確立 個別最適な学び・協働的な学びの実践	B	○算数科の授業研修協議会を4回実施し、教職員の共通理解を図り、全校で同一歩調で取組を着実に進め、指導の質が向上した。 ●授業規律がまだ確立されておらず、落ち着いて授業に取り組めない児童がいる。 ●個別最適な学び、協働的な学びの実践を行っているが、改善点はまだまだ多い。
	読書活動	計画的な図書館運営 読書活動推進の取組	A	○学校司書と図書館支援員が協働で「教師のおすすめ本」などを作成、掲示し児童の読書への意欲・関心を高めた。 ○読み聞かせを計画的に行い、図書委員の児童も参加させ、内容の濃い読書活動を行うことができた。
	学校応援団の取組	児童の安心・安全確保のための取組の充実 学習支援等の充実	B	○安心・安全連絡協議会を2回実施し、防犯ボランティア等の意見を集約し、児童の安全確保に活用することができた。 ○読み聞かせや家庭科の補助などボランティアを募り、学習活動の充実を図れた。 ●他教科の補助等計画的に人材を募集し、授業の充実を図る。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 全教職員が教育目標の具現化を図るために、「今年度の努力点」の達成に向けて取り組みを実践することができた。
- 研修主任を中心に、算数科で4回、道徳科で1回計5回の授業研究協議会を実施し、計画的、組織的に取り組むことができた。
- 生徒指導主任を中心に、積極的な生徒指導を行うことができた。
- 特別支援コーディネーターを中心に児童一人一人に寄り添った支援を行うことで、落ち着いて学習できる児童も増えてきた。
- 児童の健康観察を密に行い、保護者にと連携して迅速に対応できたことがよかった。
- 地域との連携がよくとれていて、学校・保護者・地域で児童を育成する体制が整っている。
- 給食の写真や児童の様子を頻繁に学校HPで発信され、教育活動が保護者や地域の方々にも理解されるようになってきている。

6 次年度の改善策

- 基礎基本の学力が定着していても、活用する力が身につけていない。地域・家庭と連携して反復練習を行うなど粘り強く支援していくことが重要である。
- 学習規律や生活規律の確立など課題のある児童に対して、教職員が同じ規準で繰り返し支援を行い当該児童の意識向上を図る。
- 音読の推奨や計算の反復練習、家庭学習を確実に行わせるなど、家庭と連携して児童に取り組ませる必要がある。
- 縦割り活動などで他学年との交流を頻繁に行うなど、児童の自己肯定感や自己有用感の育成のための取組を推進していく。
- 両新田中学校区が目指す子ども像の実現に向けて、教職員間の共通理解を深めながら計画的に取組を継続させていく。
- 両新田中学校区で統一した学習規律・生活規律の徹底や家庭学習の充実、「個別最適な学び」「協働的な学びの充実」を中心とした授業改善を行い、児童の学力向上を図る。